

上田市教育委員会 9月定例会会議録

1 日 時

平成 21 年 9 月 24 日 (木)

午後 2 時 30 分から 3 時 15 分まで

2 場 所

上田市教育委員会(やぐら下庁舎) 2階会議室

3 出席者

委 員

委 員 長	西田 不折
委員長職務代理者	金子 泰子
委 員	生田千鶴子
委 員	春原 秀一
教 育 長	小山 壽一

説 明 員

小市教育次長、廣川教育参事、小野塚教育総務課長、中村学校教育課長、原澤生涯学習課長、澤山人権同和教育政策幹、滝沢地域文化係長、荒井体育施設係長、清水丸子地域教育事務所長、荒井真田地域教育事務所長、伊藤武石地域教育事務所長、西沢第二学校給食センター所長、金井丸子学校給食センター所長、浅野中央公民館長、渋沢西部公民館長、坪田上田図書館長、大滝情報ライブラリー館長

<協議事項>

- 1 全国学力・学習状況調査の結果公表について
資料1により中村学校教育課長説明

西田委員長

昨年に比べて大きく変わった点はどこか。この1年間でこのことに関して一般市民から問い合わせや意見があったか。

中村学校教育課長

特段ない。

春原委員

この方針でよいと思う。2の(2)で学校や学級で公表している文言については、2年間やってきて問題がなかったという理解でよいか。

中村学校教育課長

特に問題はなかったと認識している。

生田委員

公表に際しては、学校の序列化や過度の競争につながらないようにということであるが、何のために全国学力調査をするのかを考える必要がある。学力調査の目的は、子どもたちの能力がどうかというよりも、先生方の教え方がどうかを検証するという意味が大きい。結果を見て先生方の教え方をどう改善したらいいか、その改善の材料として今回の学力調査が行なわれていると認識している。「学校の序列化や過度の競争」という文面からは、生徒の出来がこの学校は良くてこの学校は悪いといった印象を受ける。調査結果は、先生方が授業改善をどうしているか、わかりやすい授業にどれだけ取り組んでいるかを見るための資料に過ぎない。この文面からはいかにも問題が子どもたちにあるかのような印象を受ける。言葉では「子どもたちの出来云々ではなく先生方の授業改善をするためのもの」という話も聞くが、その言葉の端々に子どもたちの出来のところに重きが置かれていると感じられる。それについてはどう考えるか。

また、先日学校別の得点の表をいただいたが、上田市の平均、長野県の平均、全国平均が書かれていた。校長先生方はこういった情報をどこまで持っているか聞かせてほしい。

中村学校教育課長

この調査は、学習指導方法の改善に充てるということが目的である。「学校の序列化や過度の競争につながらないように」とは、学校間や生徒間の成績の良い悪いに影響されないようにしてほしいということである。

各学校へは全国平均、県平均、上田市平均のみを知らせている。したがって自分たちの学校の状況は分かるが上田市内の他の学校の状況はわからない。

西田委員長

この問題は、学力テストの結果をどういう風に公表するかにつきる。ただ単に結果が分かっただけでは意味がない。授業改善にどう反映させるか、それぞれ学校で前向きに努力していただきたい。今日の新聞に載っていたが、点数を良くするためにその勉強だけやっても通常の勉強がおざなりになっていけば意味がない。あくまでも結果ではあるが、その結果をどういう風に利用するか、学校ごとに真摯に受け止める、その受け止め方が大事だろうと思う。単に公表しないからお蔵入りでは全く意味がない。国レベルでお金が掛かっているのに、学校現場で有効に活用してもらい、子どもたちのためになるようにすることが本来の目的である。

金子委員

最近訪問させてもらった中学校の例をお話ししたい。学力調査を始めた1年目と1年おいて今年また見せてもらったが、授業の仕方が大きく変わっていた。最初の時は、学校目標に掲げる「よく聞く」のとおり、子どもたちが、ただ黙って聞いているだけでの足りなさがあったが、今回は「ただ聞く」だけでなく、非常に積極的に質問するようになっていた。先生方の授業も随分変わっていると感じた。

校長先生、教頭先生の話によると、学力調査の結果をきっかけに先生方が奮起し、授業の改善を図り、その結果、調査の結果もよくなったということであった。このような話を聞くと、学力調査もそのように使ってもらえたらいいと思った。

小山教育長

学力調査には、全国で行なっているものと市独自で行なっているものがあり、両方について今分析を進めている。県では、教学指導課を中心に自由参加のPDCAテストをやっている。参加した学校が授業改善に取り組み、さらに10月の調査にどのように反映されるか、これらを参考にしながら考えていきたい。

全委員 了承

< 報告事項 >

- 1 うえだ4大学リレー講座「うえだ発未来学科」の開催について
資料2により原澤生涯学習課長説明

金子委員

終了証の表記は「修」ではなく「終」か。

原澤生涯学習課長

講座を終了したという意味である。

小山教育長

学校の授業の場合は修めて終了するというふうに解釈している。もう印刷済みか。

原澤生涯学習課長

「終了証」はこれから印刷するので検討する。

西田委員長

一般的には受講証とか修了証という。お渡しする前に検討をお願いしたい。

- 2 「第4回人権を考える市民のつどい」の開催について
資料3により澤山人権同和教育政策幹説明

質疑意見 なし

- 3 「第13回上田城跡能」開催結果について
資料4により滝沢地域文化係長説明

質疑意見 なし

- 4 「第4回子ども文化講座」開催結果について
資料4により滝沢地域文化係長説明

金子委員

入場料無料ということであるが講師の西山ふさ江さんに何か謝礼をお渡しできるのか。

滝沢地域文化係長

この文化講座は上田市文化少年団と教育委員会と一緒に開催していて、文化少年団の予算の中から交通費+ くらいの謝礼を差し上げている。

5 「第1回わくわく芸術体験」開催結果について

資料4により滝沢地域文化係長説明

西田委員長

落語ということであるが城下小学校の生徒たちの反応はどうであったか。

滝沢地域文化係長

私も一緒に観たが、子どもたちは本当に新鮮な驚き、面白みを味わったようである。後で子どもたち一人一人から感想文をいただいたが、殆どの子が生の落語は初めてでこんなに面白いとは思わなかったと書いている。この事業のねらいは、日本の伝統文化や価値あるものを身に付けて、将来落語家や愛好家になることを目指してもらおうということではなく、このような日本の伝統文化の価値を知ってもらおうという趣旨である。

西田委員長

落語は、日本語の面白さ、言葉の使い方と語り方の素晴らしさなどなかなか他では味わえないものである。子どもたちがある意味で言葉の教育を楽しみながら芸術体験できる面白い試みである。

瀧川さんは上田に特別ご縁がある人ではないのか。

滝沢地域文化係長

講師は、信州国際音楽村で紹介していただいた。出身の浜松周辺での活動が多いが、何箇所もの学校で講師をされている経験豊富な方である。手際よく、つぼを心得ている講師である。

6 「平成21年度図書館まつり」について

資料5により坪田上田図書館長説明

春原委員

他の図書館との連携はあるか。

坪田上田図書館長

創造館とは連携しているが、他の図書館はそれぞれで図書館まつりを行なっているので連携はない。

西田委員長

集まった人数は去年と今年でどうか。

坪田上田図書館長

図書館まつりは2年に1回開催している。去年は絵画展であった。19年には講演会の時に50人、展示会で268人という記録が残っている。

7 行事共催等申請状況について

資料6 - 1により中村学校教育課長説明
質疑意見 なし

資料6 - 2により原澤生涯学習課長説明
質疑意見 なし

資料6 - 3により滝沢地域文化係長説明
質疑意見 なし

資料6 - 4により荒井体育施設係長説明

小山教育長

高野連の申請者名を修正されたい。

荒井体育施設係長

確認後修正する。

8 その他

浅野中央公民館長

資料公民館だよりにより説明

西田委員長

以上で9月の定例会を終了する。